

会 議 録

◇詳細—企画調整グループ 電話03-3981-4201

附属機関又は 会議体の名称		平成26年度 基本計画策定委員会(第1回)
事務局(担当課)		政策経営部企画課
開催日時		平成 26 年 7 月 16 日(水) 13 時 15 分～14 時 30 分
開催場所		議員協議会室(本庁舎4階)
議題		(1) 開会 (2) 検討の進め方について (3) 区民意識調査等の実施について (4) 第 1 回基本構想審議会の審議予定について
公開の 可否	会議	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由 豊島区行政情報公開条例第7条第1項第5号による
	会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員	副区長(委員長)、副区長(副委員長)、教育長(副委員長)、政策経営部長・特命政策担当部長・総務部長・施設管理部長・新庁舎担当部長・区民部長・文化商工部長・清掃環境部長・保健福祉部長・健康担当部長・池袋保健所長(欠席)・子ども家庭部長・都市整備部長・地域まちづくり担当部長・建築住宅担当部長・土木担当部長・会計管理室長・教育総務部長・選挙管理委員会事務局長・監査委員事務局長・区議会事務局長
	幹事	財政課長・行政経営課長・区長室長(欠席)・施設計画課長
	説明者	企画課長
	事務局	企画課企画調整グループ係長

審 議 経 過

(1)開 会

委員長(政策経営部を担任する副区長)より挨拶。

(2)検討の進め方について

《案件の説明》

説明者： 資料に基づき、新基本計画の策定や関連する行政計画の現状、全体的なスケジュールについて説明。

本委員会は要綱に基づき設置する。中間期にあたる基本構想の点検を行うとともに、現行基本計画の計画期間が満了する平成27年度末までに、新たな基本計画を策定する。本区の行政計画は平成26年4月時点において56計画あり、今年度や来年度に策定、改定を迎える計画もある。基本構想の点検と新基本計画策定の審議の中心は、区長の諮問を受けた基本構想審議会となる。庁内検討組織である本委員会には必要に応じて部会を設置する。外部有識者を主なメンバーとする政策評価委員会においても、基本計画の成果指標のあり方等について専門的な見地から検討をしていく。

スケジュールとしては、今年度は様々なデータの収集・分析等を行い、1月下旬に一次答申として基本構想の点検結果と新基本計画の策定方針をまとめ、そのうえで来年度に新しい基本計画の内容について審議することになる。

《主な意見と質疑》

委員長： 今年度予定されている行政計画の策定、改定は順調に進んでいるか。

(問題がある旨の声なし)

委員長： 部会の構成メンバーは各部課長となっているが、全員入るのか。

説明者： 部会はテーマを絞った設置を考えている。必ずしも全員とは限らない。

委員長： できるだけ若い管理職を起用したほうがよい。

委員： 財政フレームはどうするのか。また、未来戦略推進プランを毎年ローリングする中で、基本計画と戦略プランの住み分けも考えていく必要がある。若手職員の活用は大事である。

委員長： 財政フレームは重要な点である。前回はどうであったか。

幹事： 後期基本計画では何千億円から何千億円という大きな括りであった。

委員長： 今回はどう考えているのか。

説明者： 前回と同様にするかどうか。現在区として中長期で示しているのは3年間であり、それとの整合なども考えていかなければならない。

委員長： 大変重要で必ず出る話なので整理するように。

副委員長： これからはテーマ横断的に考えなければならないことが数多く出てくる。人口の構成や財政面などで厳しい時代を迎える中、危機感を持たずにやっている気が付いた時には手遅れになってしまう。今のうちに先を読んで手を打っていくことが重要であり、従来型ではない新しい変化というものを取り込んでいくことが必要になってくる。

(3)区民意識調査等の実施について

(4)第1回基本構想審議会の審議予定について

《案件の説明》

説明者： 資料に基づき、区民意識調査及び区民ワークショップの実施予定、第1回基本構想審議

会の審議予定について説明。

第1回審議会では委員委嘱、諮問等を行なったうえで、区の現況や区民意識調査、区民ワークショップについてご意見をいただく。

区民意識調査は区民5千人に郵送配布、郵送回収で9月に実施する予定である。昨年度に実施した「協働のまちづくりに関する区民意識調査」の結果を踏まえつつ、区への愛着や地域との関わり、地域づくりの方向に対する満足度や重要度を把握していきたい。

また、区民の生の声をお聴きする機会として区民ワークショップを実施したい。特徴としては、公募ではなく、ドイツ発祥の市民参加の手法であるプラークスツェレという方法を参考にしていく。無作為抽出した方に参加を呼び掛けるもので、今回は住民基本台帳から2千人を抽出したうえで、約40人、6グループ程度を作り、テーマに沿って議論、結論を出すという流れになる。9月下旬又は10月上旬の連続する土曜日、日曜日の2日間を予定している。

《主な意見と質疑》

- 委員：** ワークショップで出された意見を、どうかたちで計画に落とし込むのか。また、募集をかけると参加者は高齢者の方が多くなる傾向にあり、2日連続も負担となる面がある。
- 説明者：** 計画への反映については、しっかり考える必要がある。この手法を実施した他の自治体の状況なども調べていきたい。参加者については、無作為抽出であれば若い世代にも直接声掛けができ、公募で待っているよりも参加いただけるのではないかと思う。2日間の集中開催という点については、長期に渡って拘束感を持たせるよりも支持されやすく、議論も効率的になると考えた。これでトライしてみたい。
- 委員：** ワークショップではファシリテーターが重要となるが、そこに行政職員は入らないのか。
- 説明者：** 行政の役割としては議論に入る前の基礎的な情報提供と考えている。ファシリテーターは各グループに1名配置するが、本業務の支援事業者を活用していきたい。
- 委員長：** 今回の方法の最大のメリットは何か。
- 説明者：** 公募方式では若い世代に参加いただくのは難しい状況があった。それを打破する力を持った手法と期待している。また、要望を並べ立てて終わりではなく、テーマについて一定の結論を出していく手法となっている。参加者には単なるボランティアではなく、まとめるという責任を持って臨んでいただくことになる。
- 委員長：** ファシリテーターに行政職員が入らないメリットは何か。
- 説明者：** 行政主導のワークショップだと行政の意思が誘導的に働くということが言われていると思う。市民参加の形として、市民の視点で一定の結論まで導かれることに意味がある。
- 委員：** 豊島区の縮図の声を聴くのか、若い世代の声を聴くのか。その辺をはっきりさせたほうがよい。やり様によっては若い世代も集まると思う。
- 委員長：** ワークショップで貴重な意見が出ても、それが十分に活かされない、まとまらないということの懸念があるのだと思う。行政がサポートに入っても良いのではないかとも思う。
- 説明者：** 業務支援事業者とも調整していきたい。
- 委員：** 計画案の段階になると行政側が作成していくことになる。擦り合わせをしておくのであれば、最初の段階である。行政ともきちんと議論できるような場を設けておかないと、形式だけだったという批判を受けることも覚悟しておかなければならない。
- 委員：** 計画づくりに幅広い参画をいただくという点で、1つは従業者、勤め人の参画をどう考えるのか。医療や介護の仕事を通じて区の実態を見ている方々もいると思う。また、地域で日々

活動されている団体からの意見の吸い上げはどのように考えているのか。

説明者: 区内にはいろいろな団体があるので、ご意見を賜わることは必要ではないかという問題意識は持っている。団体に対するアンケートなのか、個別にヒアリングの場を設けていくのか、作業量なども勘案しながら今後検討していきたい。

委員: 実際の施策の展開にあたっては、そういった方々が関与する場面は多い。十分に留意いただきたい。

委員: 基本計画に先行して分野別計画が作られている中で、それぞれ区民の意見を吸い上げて策定されていると思う。例えば、障害者計画を策定する際に、介護者の意見等をどのように吸い上げているのか聞かせて欲しい。

委員: 障害者本人の意見は勿論、計画づくりの中で介護者の意見も重要な部分を占めている。

委員: 基本計画は分野別計画を総合的に調整するものでもある。基本計画を作成する場にニーズを持っている区民の声がストレートに反映されるかたちがとれなくても、分野別計画との調整の中で間接的にでも区民の声を反映できるかたちに持っていければと思う。

副委員長: ワークショップを実施するうえでテーマがはっきりしないで募集をしても百家争鳴となる。具体的なテーマ設定が必要である。いろいろな方面の意見を言って終わりという形にならないような活かし方を考えてもらいたい。

委員長: 今日は様々、重要な意見を頂いた。予定にはないが、こういう整理をしたという会議を1回設けたい。大事なことなので共通の認識を持ってスタートさせていきたい。

委員: 区の行政計画は増加の状況にある。一般的に計画期間が満了すると改定という流れになるが、どこかの組織で中身を含めて継続するのか否かを判断することも必要だと思う。法定計画でも簡素化できるものもある。この機会に検討をお願いしたい。

委員長: 事務局だけでは判断できないかもしれないが、考えてみる。
会議録の公開はどうなっているのか。

説明者: 前回のものを見ると会議は非公開、会議録は公開となっている。詳細は報告する。

委員長: 以上で終了する。

会議の結果	会議の進め方については、了承。 区民意識調査等の実施については、改めて会議を開催し、整理した内容を付議する。
-------	---

提出された資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・豊島区基本計画策定委員会設置要綱 ・基本構想の点検及び新たな基本計画の策定について ・豊島区基本構想 ・豊島区自治の推進に関する基本条例 ・豊島区の行政計画一覧 ・基本構想点検・新基本計画策定の検討体制(概念図) ・豊島区基本構想審議会条例 ・豊島区基本構想審議会委員予定者名簿 ・基本構想点検・新基本計画策定スケジュール(予定) ・平成 26 年度の審議スケジュール(予定) ・基本計画策定のための区民意識調査の実施予定 ・基本計画策定のための区民ワークショップの実施予定 ・「豊島区の現況について」の説明予定資料
----------	---